(第1面)

## 産業廃棄物処理計画書

2023年6月13日

愛知県知事殿

住 所 北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号 氏 名 雪印メグミルク株式会社 代表取締役社長 佐藤 雅俊

電話番号 011-704-2311

提出者 住 所 愛知県豊川市伊奈町南山新田350-79

氏 名 雪印メグミルク株式会社 豊橋工場

豊橋工場長 高瀬 王好

電話番号 0533-78-3711

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場の名称	ゅきじるし かぶしきがいしゃ とよはしこうじょう 雪 印 メグミルク株式会社 豊橋工場
事	業場の所在地	愛知県豊川市伊奈町南山新田350-79
計	画 期 間	2023年4月1日~2024年3月31日
当記	<b>亥事業場において現に行</b>	っている事業に関する事項
	①事業の種類	09:食料品製造業
	②事業の規模	製造品出荷額:10.286百万円
	③従業員数	155人(2023年3月末)

#### 製造廃材

廃プラスチック類→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立 廃プラスチック類(鉄心パレット)→中間処理業者に委託して破砕後、 埋立

混廃(金属系)→中間処理業者に委託して再資源化 混廃→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立 動・植物性残さ→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立 ガラス屑(蛍光管)→中間処理業者に委託して再資源化 ガラス屑→中間処理業者に委託して選別・破砕した後埋立 木くず→中間処理業者に委託して燃料として再資源化 廃酸→中間処理業者に委託し中和・脱水した後、焼却し埋立 廃油→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立 廃油→中間処理業者に委託して油水分離した後再資源化 汚泥→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立 廃電池→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立

④産業廃棄物の一連 の処理の工程

### 製造汚水

汚泥→自社にて脱水後、中間処理業者に委託して再資源化 廃酸→中間処理業者に委託して燃料として再資源化 動・植物性残さ→中間処理業者に委託して燃料として焼却後、埋立 動・植物性残渣→中間処理業者に委託してメタン発酵化

(日本工業規格 A列4番)

産業	-   	理体制に関する	る事項		
	(管理体制図)				
	工場長:中間処理施設	責任者 (脱水村	幾)		
		棄物置場責任	者、マニ	フェスト確認)	
	工務課員(廃	棄物の日常管理	浬)		
産業	   	 関する事項			
		【前年度(20	)22年度)	実績】	
		産業廃棄物の	の種類		
		排出	量	t	t
	①現状				
		(これまでに	.実施した	こ取組)	
		別紙の通り			
		【目標】			
		産業廃棄物の	の種類		
		排 出	量	t	t
	<b>ி</b> .க				
	②計画				
		(今後実施す   別紙の通り	る予定の	)取組)	
		73 1/15/(-> 700-)			
産業	<b>薬廃棄物の分別に関する</b>	事項			
		(分別してい	ス産業園	<b>を棄物の種類及び分別に</b> 関	<b>見</b> すろ取組)
	①現状			でれに分別し、保管して	
	②計画	<ul><li>(今後分別す</li><li>特になし</li></ul>	る予定の	の産業廃棄物の種類及び分	分別に関する取組)
	<b>少</b> 印   四	コル( ) ( )			

自	っ行う産業廃棄物の再生	利用に関する事項		
		【前年度(一年度)	実績】	
		産業廃棄物の種類		
	①現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	<b>⊕</b> 964€	(これまでに実施した	上取組)	
		【目標】		
		産業廃棄物の種類		
	②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(2) FT EE	(今後実施する予定の	)取組)	
自	っ行う産業廃棄物の中間	処理に関する事項		
		【前年度(2022年度)	実績】	
		産業廃棄物の種類	汚泥	
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	O t	t
	①現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	1 4 2 1 t	t
		(これまでに実施した・別紙の通り	上取組)	
		【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	
	②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	1407 t	t

		・別紙の通り		
		(第4頁	面)	
自	ら行う産業廃棄物の埋立	処分又は海洋投入処分に	関する事項	
		【前年度( 一 年度)	実績】	
		産業廃棄物の種類		
	①現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
		(これまでに実施した取	<b>双組)</b>	
		【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		自ら埋立処分又は		
	②計画	海洋投入処分を行う	t	t
		産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取	7 <b>夕</b> 日)	
		「「仮夫旭りる」が足の助	(水比)	
産	業廃棄物の処理の委託に 「	.関する <del>事</del> 項 		
		【前年度(2022年度	三 美績】	
		産業廃棄物の種類		
		全処理委託量	t	t
	①現状	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	J-St-W	再生利用業者への 処理 委託 量	t	t
		認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への	t	t

処理委託量

(今後実施する予定の取組)

(これまでに実施した取組) ・別紙の通り

# (第5面)

		【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
		(今後実施する予定の・別紙の通り	)取組)	
<b>※</b> [	事務処理欄			

### 備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成 工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規 模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

の内製処理運用の歩留まりを向 乗物の種類 非出量 他する予定の取 過剰引き処理運用の歩留まりを関いか場とのありまりではである。	) 実績】 汚泥(排水) 1695t 組) 止による脱水汚にによる脱水汚にによる外部委託 上させ、排水負 汚泥(排水) 1678t 組) 止による外部委託 上さる外部委託 上さる廃物発生量 による関減とする	廃棄量の増加 荷を低減する事 廃酸 1t 泥排出量の増加 廃棄量の増加 荷を低減する事 削減(継続)	43.6t 加防止 防止 事で汚泥の発生量増 廃プラスチック類 43 t 加防止 (継続) 防止 (継続) 事で汚泥の発生量増	の.84t 加を防止 動・植物性残さ 1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t		ガラスくず   Ot   ガラスくず   It   ガラスくず   Ot	木くず 0.11t 木くず 1 t	廃油 0.603t 廃油 1t 廃油 0.603t	汚泥 0.09t 汚泥 1t 汚泥 0.09t	廃電池 It
乗物の種類	汚泥(排水) 1695t 組) 止による脱水汚による外部委託 上させ、排水負 汚泥(排水) 1678t 組) 止による脱水汚による外部委託 上さる廃物発生量による廃物発生量による廃物を生量による原物をする した。1%削減とする	0.005t  泥排出量の増加  廃棄量の増加  廃酸  1t  泥排出量の増加  廃酸  1t  泥排出量の増加  原育を低減する  削減(継続) (1t以下の種類  廃酸  0.005t	### 43.6t  ### 43.6t  ### 75元の発生量増  ###	の.84t 加を防止 動・植物性残さ 1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	1.48t 混廃(金属屑など) 1.47t ま) 混廃(金属屑など)	## Ot ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	0.11t 木くず 1 t	0.603t 廃油 1t	0.09t 汚泥 1t	
作出量 でに関したき では 対した では 対した を では 対した を では 対した を では 利力 製型 また が また が は が は が は が は が は が は が は が は が は が	1695t 組) 止による脱水汚による外部委託 上させ、排水負 汚泥(排水) 1678t 組) 止による脱水汚による脱水汚による外部委託 上させ、排水負による廃物発生量による廃物発生量による原物発生量にある1%削減とする	0.005t  泥排出量の増加  廃棄量の増加  廃酸  1t  泥排出量の増加  廃酸  1t  泥排出量の増加  原育を低減する  削減(継続) (1t以下の種類  廃酸  0.005t	### 43.6t  ### 43.6t  ### 75元の発生量増  ###	の.84t 加を防止 動・植物性残さ 1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	1.48t 混廃(金属屑など) 1.47t ま) 混廃(金属屑など)	## Ot ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	0.11t 木くず 1 t	0.603t 廃油 1t	0.09t 汚泥 1t	
でに実施した下、 取り でに実施した 取り を した き いっち を かっち を かっか を で を かっか を で を 変 を かっか を で で き で で で で で で で で で で で で で で で で	組) 止による脱水汚による外部委託 上させ、排水負 汚泥(排水) 1678t 組) 止による脱水汚による脱水汚による外部委託 上させ、排水負による廃物発生量による廃物発生量による廃物発生量による原物発生量による原物発生量による原物発生量による原物発生量による原物・変生を表現します。	泥排出量の増加 廃棄量の増加 情を低減する事 原酸 1t 泥排出量の増加 廃棄を低減する事 削減(継続) (1t以下の種類 廃酸 0.005t	加防止 防止 事で汚泥の発生量増 魔プラスチック類 43 t 加防止 (継続) 防止 (継続) 事で汚泥の発生量増 iは1tとする) 魔プラスチック類 43.6t	加を防止 動・植物性残さ 1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	混廃(金属屑など) 1.47t 1.47t ほ)	ガラスくず lt	木くず 1 t	廃油 lt 廃油	汚泥 1t 汚泥	
国剰引き抜き防用の の内製処まりを の内製型まりを の内製型まりを を を を のの種類 を を を ののを ののが ののが ののが ののが のがのが のがのが には ののが のがのが のがのが には では のがのが では では のがのが では では では では では では では では では では	止による脱水汚による外部委託 上させ、排水負 汚泥(排水) 1678t 組) 止による脱水汚による外部委託 上させ、排水負による廃物発生量による廃物発生量による廃物発生量による原物発生量による原物発生量による原物・大きない。	廃棄量の増加 荷を低減する事 廃酸 1t 泥排出量の増加 廃棄金低減続) (1t以下の種類 廃酸 0.005t	防止 事で汚泥の発生量増 魔プラスチック類 43 t 加防止 (継続) 防止 (継続) 事で汚泥の発生量増 iは1tとする) 魔プラスチック類 43.6t	動・植物性残さ 1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	1.47t (表際(金属屑など)	lt ガラスくず	1 t 木くず	It 廃油	1t 汚泥	
作出量 をする予定の取 過剰引き抜き防 の内製処理運用 の歩留まりを向 オの買い控えに は前年排出量か 託に関する事項 (2022年度 棄物の種類 理委託量 定処理業者への	1678t 組) 止による脱水汚活 による外部委託) 上させ、排水負 よる廃物発生量 ら1%削減とする り 実績】 汚泥(排水)	1t 泥排出量の増加 廃棄量の増加の 荷を低減する。 削減(継続) (1t以下の種類 廃酸 0.005t	43 t 加防止 (継続) 防止 (継続) 事で汚泥の発生量増 は1tとする)  廃プラスチック類 43.6t	1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	1.47t (表際(金属屑など)	lt ガラスくず	1 t 木くず	It 廃油	1t 汚泥	
作出量 をする予定の取 過剰引き抜き防 の内製処理運用 の歩留まりを向 オの買い控えに は前年排出量か 託に関する事項 (2022年度 棄物の種類 理委託量 定処理業者への	1678t 組) 止による脱水汚活 による外部委託) 上させ、排水負 よる廃物発生量 ら1%削減とする り 実績】 汚泥(排水)	1t 泥排出量の増加 廃棄量の増加の 荷を低減する。 削減(継続) (1t以下の種類 廃酸 0.005t	43 t 加防止 (継続) 防止 (継続) 事で汚泥の発生量増 は1tとする)  廃プラスチック類 43.6t	1 t 加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	1.47t (表際(金属屑など)	lt ガラスくず	1 t 木くず	It 廃油	1t 汚泥	
をする予定の取品利引き抜き防力内製処理運用の歩留まりをにまずる事では、 に関する事では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	組) 止による脱水汚; による外部委託 上させ、排水負; よる廃物発生量; ら1%削減とする () 実績】 汚泥(排水)	泥排出量の増加 廃棄量の増加 荷を低減する専 削減(継続) (1t以下の種類 廃酸 0.005t	加防止 (継続) 坊止 (継続) 事で汚泥の発生量増 iは1tとする) 廃プラスチック類 43.6t	加を防止(継続 動・植物性残さ 0.84t	(記)   混廃(金属屑など)	ガラスくず	木くず	廃油	汚泥	1t
国剰引き抜き防 の内製処理運用 の歩留まりを向 すの買い控えに は前年排出量か 託に関する事項 (2022年度 棄物の種類 理委託量 定処理業者への	止による脱水汚による外部委託 上させ、排水負 よる廃物発生量に ら1%削減とする () 実績】 汚泥(排水)	廃棄量の増加II 荷を低減する専 削減(継続) (1t以下の種類 廃酸 0.005t	防止 (継続) 事で汚泥の発生量増 iは1tとする) 廃プラスチック類 43.6t	動・植物性残さ 0.84t	混廃(金属屑など)			>=		
(2022年度 棄物の種類 理委託量 定処理業者への	) 実績】 汚泥(排水)	0.005t	43.6t	0.84t				>=		
棄物の種類 理委託量 <sup>定処理業者への</sup>	汚泥(排水)	0.005t	43.6t	0.84t				>=		
理委託量定処理業者への		0.005t	43.6t	0.84t				>=		
定処理業者への	274t				1. 48t	0t	0.11t	0.603t	0.09t	
		0.005t	42 6±	0.04:						
			45.00	0.84t				0.603t	0.09t	
利用業者への 心理委託量	274t		40.5t		1. 48t		0.11t	0.6t		
热回収業者への 処理委託量		0.005t						0.003t	0.02t	
回収業者以外の を行う業者への 心理委託量			3. 1t	0.84t					0.07t	
(これまでに実施した取組) ・焼却廃プラスチック類の分別強化による一部リサイクル化 ・廃プラスチック類の委託変更による一部リサイクル化 ・廃プラスチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収 【目標】										
	汚泥(排水)	廃酸	廃プラスチック類	動・植物性残さ	混廃(金属屑など)	ガラスくず	木くず	廃油	汚泥	廃電液
理委託量	271t	1t	43t	1t	1. 47t	1t	1t	1t	1t	1t
定処理業者への 心理委託量		1t	43t	1t		1t		1t	1t	1t
<b>心理委託量</b>	271t		40t		1. 47t		1t	1t		
0.理委託量		1t								
回収業者以外の を行う業者への U理委託量			3t	1t					1t	1t
を別でプスス	を行う業者への 理委託量した取類 に実施した取類 に実が少り類類 はチック類類 理委託業者への 理委託業者への 理要素計量 に理委託者への 理要素者量 に理要業者以 に理要業者以 のし。	を行う業者への 理要託量 に実施した取組) プラスチック類の会託変更による一 メチック類及び動植物性残渣処 棄物の種類 汚泥(排水) 理委託量 271t 定処理業者への 理委託量 271t に関収業者への 理要託量 271t に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者への に関収業者との に関収業者との に関収業者との に関収業者以外の を行う業者への に関委託量	を行う業者への 理委託量 デに実施した取組) デラスチック類の分別強化による一部リサイミ ボチック類の委託変更による一部リサイクルは ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更に、 棄物の種類 汚泥(排水) 廃酸 理委託量 271t 1t 定処理業者への は理委託量 271t 1t 同収業者への は理委託量 271t 1t 1t 1t 1	を行う業者への 理要託量 に実施した取組) プラスチック類の分別強化による一部リサイクル化 ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収 (東物の種類 汚泥(排水) 廃酸 廃プラスチック類 理委託量 271t 1t 43t 定処理業者への 理委託量 271t 1t 43t に埋委託量 271t 1t 43t に埋委託量 1t 43t に埋委託量 271t 3t 40t に埋委託量 3t 40t に埋委託量 3t 40t	を行う業者への  理委託量  「に実施した取組) 「フスチック類の分別強化による一部リサイクル化  ボチック類の委託変更による一部リサイクル化  ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収  「実物の種類 汚泥(排水) 廃酸 廃プラスチック類 動・植物性残さ  理委託量 271t 1t 43t 1t  定処理業者への ・理委託量 1t 43t 1t  回収業者への ・理委託量 271t 40t  回収業者への ・理委託量 1t 40t  回収業者への ・理委託量 3t 1t  回収業者への ・理委託量 3t 1t  「担要委託量 1t 40t  「日本会託」 1t 40t  「日本会託」 1t 40t  「日本会託」 1t 40t	<ul> <li>を行う業者への 理要託量</li> <li>に実施した取組)</li> <li>プラスチック類の分別強化による一部リサイクル化</li> <li>ボチック類の委託変更による一部リサイクル化</li> <li>ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収</li> <li>(産業事業)</li> <li>(産業事業)</li> <li>(産業事業)</li> <li>(産業事業)</li> <li>(産業事業)</li> <li>(生理委託量)</li> <li>(生理委託量</li></ul>	<ul> <li>を行う業者への 理委託量</li> <li>プスチック類の分別強化による一部リサイクル化 ボチック類の委託変更による一部リサイクル化 ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収</li> <li>(事物の種類 汚泥(排水) 廃酸 廃プラスチック類 動・植物性残さ 混廃(金属屑など) ガラスくず 理委託量 271t 1t 43t 1t 1.47t 1t 1t 20,02要素配量 1t 1t 43t 1t 1.47t 1t 1t</li></ul>	<ul> <li>を行う業者への 理委託量</li> <li>ポラスチック類の分別強化による一部リサイクル化 ボチック類の委託変更による一部リサイクル化 ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収</li> <li>棄物の種類 汚泥(排水) 廃酸 廃プラスチック類 動・植物性残さ 混廃(金属屑など) ガラスくず 木くず 理委託量 271t 1t 43t 1t 1.47t 1t 1t</li></ul>	<ul> <li>を行う業者への 理委託量</li> <li>は理委託を デラスチック類の分別強化による一部リサイクル化 ボチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収</li> <li>薬物の種類 汚泥(排水) 廃酸 廃プラスチック類 動・植物性残さ 混廃(金属屑など) ガラスくず 木くず 廃油 理委託量 271t 1t 43t 1t 1.47t 1t 1t</li></ul>	<ul> <li>を行う業者への は理委託量</li></ul>

・廃プラスチック類及び動植物性残渣処分方法変更による熱回収

・目標値は前年排出量から1%削減とする(1t以下の種類は1tとする)

・不要資材の買い控えによる廃物発生量削減